

令和5年度 公立鳥取環境大学
学校推薦型選抜（I型）問題

小 論 文
(経営学部 90分)

(注意事項)

1. 解答開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は4ページ、解答用紙は2枚です。
3. 解答用紙の所定欄に受験番号、氏名を記入しなさい。
4. 解答用紙は横書きです。
5. 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰りなさい。

以下の文章を読み、問いに答えなさい。なお、解答の際に、句読点、「」も1字と数える。

大量生産・大量消費という工業社会の行き詰まりは、とりもなおさず市場経済の限界を物語っている。というのも、工業社会と市場社会とはメダルの表と裏の関係にあるからである。

工業社会が成立するまでの農業社会は、市場社会ではない。もちろん、農業社会にも市場が存在しなかったわけではない。しかし、農業社会に存在する市場は、余剰生産物を取引する生産物市場にすぎない。土地、労働、資本という生産要素^aが生み出す要素サービスを取引する要素市場^bは存在しないのである。

農業社会では自然そのものが生産を規定してしまう。人間は自然に働きかけ、自然を人間の生存にとって必要な有用物つまりグッズに変形する。それが経済である。しかし、農業社会では自然の豊かさそのものが生産を規定してしまう。自然の恵みが生産を規定し、人間の労働は副次的な役割しか果たさないのである。

というのも、農業では「生きた自然」を原材料とするからである。ところが、工業では「死んだ自然」を原材料とする。そのため工業社会では、母なる自然も、人間の行為そのものである労働も、市場での取引の対象とする。

工業生産に必要なインプットは、すべて市場で調達することになる。しかも、工業では生産されたアウトプットも全て市場で売り捌く。それゆえに、工業社会は市場社会となる。

工業では自然に働きかける手段、つまり機械設備という資本財^cが生産を規定する。そのため工業では自然や人間を排除しようとする。つまり、①生産過程から自然や人間を排除して、機械設備という資本財に置き換えようとする。

そのため工業社会では、経済の本質が蔽^{おほ}い隠されてしまう。繰り返せば、経済とは人間が自然に働きかける行為である。ところが、工業社会では人間も自然も排除しようとする方向に動くのである。

もっとも、工業社会つまり市場社会といえども、社会全体で市場原理^dが作動しているわけではない。というよりも、市場社会は三つのサブシステムから成り立っている。つまり、市場原理で営まれる経済システムに加えて、政府という政治システムや人間の生活が営まれる家族などの社会システムがある。

工業を基軸に生産活動を実施する経済システムが、人間や自然を排除しようとする傾向を、政治システムや社会システムが是正してきたとあってよい。つまり、市場経済の人間を排除しようとする傾向に対して、政治システムは福祉国家^eをめざして対応してきたとあってよい。

福祉国家は大量生産・大量消費を実現した産業構造の上に成り立っている。大量生産方式は生産性をあげるために、生産工程を合理化して、人間を排除する。つまり、作業工程を動作研究と人間研究によって、人間の労働を単純で部分的な労働に細分化する。細分化された労働を、ベルトコンベアーなどの自動機械に対応させて配置する。

<脚注> a : 生産を行う際に用いられる必要な要素のこと

b : 生産要素をやり取りする市場のこと

c : 生産するために使用・消費される、土地以外の財貨のこと

d : 市場がさまざまな過不足やアンバランスを自ら調整し最適化する仕組みや機能のこと

e : 国民の福祉増進を国家の目標とし、積極的に国民生活の安定・確保を図ることを任務とする国家のこと

こうした時間研究や動作研究にもとづいた科学的管理^fのもとでは、労働者の熟練は奪われてしまう。人間は機械設備に従属して、機械設備のリズムに合わせて労働する。しかし、生産性^gは上昇する。そうした生産性上昇の果実は、賃金の上昇という形で労働者に還元される。上昇した賃金で、大量生産された生産物を大量消費するという「好ましい」サイクルが形成されることになる。

ところが、生産性上昇の恩恵にあずかれる者は、企業に雇用されている者だけである。働いていない失業者や、働くことのできない疾病者あるいは高齢者などは除外されてしまう。

そこで政治システムが所得再分配を実施する。つまり、失業者、疾病者、高齢者などの雇用されていない者に対しては、市場の外側で政府が貨幣を給付する。もちろん、給付する貨幣は、生産性の上昇による果実を租税あるいは社会保障負担として調達しなければならない。

そうだとすれば、福祉国家とは大量生産システムの導入による果実を、政府が雇用されていない者、つまり生産過程から排除されている者にも均霑^hしていくことを意味しているといえる。ところが、こうした所得再分配は中央集権的な国民国家が担わざるをえない。というのも、入退自由な地方自治体が所得再分配を実施しても意味がないからである。

～ 中略 ～

これに対して国境を管理する国民国家であれば、人々は自由に出入りすることができない。もっとも、資本は国境を越えて自由にフライトしていってしまうⁱ。そこで第二次大戦後にはブレトン・ウッズ体制が合意されることになる。

世界銀行やIMFの設立に象徴されるブレトン・ウッズ体制では、固定為替相場を維持するために、資本の移動を国民国家が統制できる機能が容認されている。土地、資本、労働の生産要素のうち、国家は資本の移動を統制できればすべての生産要素の移動が統制可能となる。土地は不動産で動かない。人間は国境で移動を統制することができ、しかも言語と習慣の壁があり、自由に移動可能でもないからである。

②所得を生み出す生産要素の移動が統制できれば、所得再分配が可能になる。こうして第二次大戦後には、市場の外側で現金給付を行う中央集権的な所得再分配国家が福祉国家として機能していたのである。

ところが、所得再分配国家の前提だったブレトン・ウッズ体制は、一九七一年にアメリカの一方的な通告によってもろくも崩れることになる。当時のニクソン大統領が新経済計画の一環としてドルと金の交換を停止し、実質的にドル切下げとなる輸入課徴金賦課を発表したからである。ニクソン・ショックは世界に大きな衝撃を与えて、西欧諸国や日本は相次いで変動相場制に移行した。それがきっかけで福祉国家を目指した戦後体制が崩れ、金融自由化の波によって世界の資本が国境に関係なくグローバルに動き回るようになったのである。

<脚注> f : 基準となる仕事量と標準的な手順を科学的に定義し、計画的に実行させること

g : 生産するために投入したものと、生み出した生産物の比率のこと

h : 平等に恩恵や利益を受けること

i : 「資本は国境を越えて自由にフライトしていってしまう」とは、様々な要因によるリスクを回避するため、国内に滞留していた資金が国外のより安全な地域へと移動することを意味する

ブレトン・ウッズ体制の崩壊とは、資本統制の解除を意味する。これによって、国境を越えて一瞬のうちにキャピタル・フライト（資本逃避）する現象が起り、経済システムがボーンダレス化する。国民国家の加えている規制を緩和し、国民国家が経営している国営企業を民営化し、それが時代の合言葉になって、福祉国家体制を崩していく。

工業社会には自然を機械で置き換え、人間を排除しようとする傾向がある。人間を排除しようとする傾向に対しては、政治システムが福祉国家を形成して対応していたのだけれども、それは経済システムがグローバル化されることによって機能不全に陥っていく。

しかし、工業社会が自然を機械設備で置き換えようとする傾向のほうが深刻かもしれない。というのも、自然をより効率的に使用するために、自然の利用を高度化したり、より安価な自然を求めて、自然を破壊する領域を拡大してしまうからである。

しかも、自然は生産要素としてだけでなく、原材料としても利用される。とはいえ、工業が使用する原材料は、「死んだ自然」である。農業は「生きた自然」を原材料として、それを殺して生産物とする。工業は農業が殺した「死んだ自然」を原材料とする。例えば米菓であれば、農業が殺した稲＝米を加工して製品にする。

農業では自然の再生力を破壊することはない。もし自然の再生力を破壊してしまえば、「生きた自然」を原材料とする農業は自滅する。寄生する生物が、寄生している対象を殺してしまえば、自殺行為であることと同じである。

ところが、「死んだ自然」を原材料とする工業では、「死んだ自然」を安価に入手するために機械設備を使用する。七つの海を越えて遠方からでも「死んだ自然」を入手するために、交通手段を発達させる。しかし、そうすると「死んだ自然」を生産する現場が遠く離れて見えなくなってしまふ。もちろん、そうすると自然破壊が飛躍的に進んでしまふ。

しかも、生産過程から自然に左右されることを排除しようとする動きも登場する。自然は人間の制御に従わないからである。かつてゴムは「生きた自然」を殺して生産された。自動車のタイヤも天然ゴムを加工して製造された。しかし、天然ゴムは作柄という自然に支配されて価格が変動する。そのため現在ではタイヤの原料には、合成ゴムが使用されている。

工業では自然が排除され、合成ゴムに限らず自然には存在しない多くの合成物質が現在では利用されている。しかも、そうした合成物質が自然の再生力を奪い、延いては人間の生活を破壊していくことになる

工業を^{ほうまつ}包摂した市場社会は明らかに行き詰まっている。それは市場社会が本源的生産要素として、自然と人間の労働とを市場化したことに起因している。人間の労働を市場化したことについていえば、政治システムが福祉国家として、社会の共同事業である財政によって対応してきたといつてよい。

ところが、自然を市場化したことによって引き起こされる自然破壊については、工業社会における政治システムは有効な対応を、社会の共同事業として実施することを怠ってきたといつてよい。しかも自然破壊は人間の生存そのものを脅かすまでに深刻化してきている。

そうだとすれば、大量生産・大量消費を実現してきた工業社会は二重の意味で、人間の生活の持続可能性を維持できずに危機に瀕しているといふことができる。第一に、グローバリゼーションによって、人間の労働を市場化したことにもなつて引き起こされる社会問題に、福祉国家として対応することが困難になったといふことである。そのため人間の生活の

持続可能性が危機に陥っている。第二に、③自然を市場化したことにもなって引き起こされる自然破壊が深刻化し、人間の生活の持続可能性が危機に陥っているということである。

神野直彦著「地域再生の経済学 豊かさを問い直す」 中公新書 1657
中央公論新社 2002年 p37-44 一部改変

問1. 下線部①について、何故、工業社会は生産過程から自然や人間を排除しようとするのか、100字以内で簡潔に説明しなさい。

問2. 下線部②について、所得を生み出す生産要素の移動が統制できなければ、何故、所得再分配が出来ないのか、100字以上200字以下で説明しなさい。

問3.

(1) 下線部③について、筆者が考える自然破壊が起こるプロセスを農業と工業を比較させつつ説明しなさい。なお字数は200字以上300字以下とする。

(2) (1)の内容を踏まえ、自然破壊を防ぐにはどのような取組みが必要か、自身の考えを述べなさい。なお字数は200字以上300字以下とする。